

安芸の宮島「安芸国一の宮巖島神社」

御三神、「宗像三女神」について。(家内たち女将仲間向けに書いたものです。)

古事記にでてくる天之御中主神(アメノミナカヌシのカミ)とは2,600年ほど前、縄文時代に現れた大指導者のこと。(大淡方様という。)

此の頃はすでに大陸から外来者蛮人が来て強奪、殺害、人さらいが起きていたので、長男には山麓住、次男には山下住の名を与えて国を守るために要所要所に住まわせた。

☆参考:後の時代のスサノウノミコトのオロチオン族退治の話もこの蛮人退治の話。

大淡方様は末子の直系命まつすぐのみことに総本家を継がせる。(日本の古代は末子相続制)

総本家と分家として、分家は総本家に忠誠を捧げる、そして団結を強めていくという道德の形ができた。

総本家15代は孫に「皇統命」(スメラスジ命)の尊称を与える。(初代の皇統命でこれが後に天皇という尊称になっていく。此の頃寒冷化が進んだため15代と皇統命が都を移す。⇒天孫降臨。)

前出の長男、次男一族も何代も過ぎ、それぞれの分家が多数できてきて、山本一族と山下一族が協力し合ってさらに国防に勤める。

鈴鹿を開拓し守ってきた山本一族のうちの一団の十八代目が猿田彦命であり、この時は既に帆船が出来ていて、ニニギノミコト一行を案内する任に就いています。

瀬戸内海(大三島)には山下一族が繁栄していて難波にニニギノミコトヲ出迎えた。

大三島でニニギノミコトは大山住命の娘、コノハナサクヤヒメと結婚。

猿田彦命の舟、山本住命の舟を揃えて筑紫に向かった。(古事記ではこれを天孫降臨)

☆海道東征とは、筑紫平定後の帰路の事を誤解して記したもの。東征ではなく帰還と言った方がよい。

34代皇統命(イザナギノミコト)のもとに出雲からナミ姫が嫁ぐが、出雲の本家は瀬戸内海の大三島。(大三島から別れた分家が出雲の意宇国をつくった。)

総本家にナミ姫が嫁いだという事。

35代皇統命ヒルメムチ命(後に天照大神と呼ばれる)の弟は母の国の出雲へ行きその子供が悪名高きオオクニヌシノミコト。

☆筑紫平定の前に天照大神が三人の姫に九州の様子を見るようにと派遣した。

(八年もの歳月が掛った。ヒルメムチに報告の為にもどる。タギリヒメは宗像へ嫁いでいる。博多湾の辺りに住む。)

この三姫が宗像三神として巖島神社に祭られている神。

By,草津温泉桐島屋旅館館主 中澤芳章(中央アジア研究所顧問)